

# 南海トラフ地震に備えて

～私たちの街で起きた三河地震から学ぶ～

---

安城西部小学校5年 杉崎 未梨



# 南海トラフ地震に備えて

～ 私たちの街で起きた三河地震から学ぶ～

安城市立安城西部小学校 5年組 杉崎 未梨

・私が調べようとしたきっかけ

・私の知っている地震は阪神大震災、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震があります。阪神大震災、東日本大震災、熊本地震は過去の災害の番組でしか見たことがありませんでした。今年1月日に起きた能登半島地震は地震が発生してすぐにニュースで見ました。ニュースでは地震での揺れや津波で家が崩れたり多くの人が亡くなったりケガをしたり水道やガスが止まったり大変な様子を見ました。4年生の時社会の授業で安城市も昔三河地震という大きな地震があったことを知りました。また日本は速いうちに南海トラフ地震という大きな地震がくることが心配されています。そこでこの地域で過去に起きた三河地震について調べて、学んで南海トラフ地震に対して防災に備える準備のきっかけにしようと考えました。



阪神大震災



東日本大震災



能登半島地震



熊本地震

・終戦前後に発生した地震

・太平洋戦争が終結した1945年前後の5年間は日本列島大揺れの時代でした。このうち東南海地震と南海地震は南海トラフで発生した海溝型の巨大地震、そのほかの3例は内陸の活断層で発生した直下型地震でした。その中で東南海地震と三河地震は戦時中のためほとんど国民に知らされませんでした。"隠された大地震"とも言われています。①

## ・東南海地震の発生

・1944年(昭和19年)12月7日13時35分に東南海地震が発生しました。M7.9  
南海トラフに沿う3つの震源域のうち真ん中の部分でプレート境界地震が  
発生したのです。死者・行方不明者1223人、負傷者2864人、家屋全半壊54564戸。  
津波による被害は流出家屋3129戸、浸水家屋8816戸、また焼失家屋は3129戸。  
火災発生は26ヶ所と大きな被害をもたらしました。当時は太平洋戦争中で日本は  
末期的な状態でしたがもし日本の中心にあたる地域が大地震に見まわれたこ  
とを公表すれば国民の戦意喪失につながるのではないかとして国民に伝えられ  
ず遠ざけられてしまったのです。



地震による地割れ



家屋の倒壊



地震による津波

## ・三河地震の発生

・年が明けて1945年(昭和20年)東南海地震から37日後にあたる1月13日の  
午前3時38分愛知県南陪を震源とする三河地震が発生しました。地震の大きさは  
M6.8(震度7相当) 深溝断層という断層の活動による直下型地震でした。陸上に  
18km、海底に10km、垂直変位が最大2メートルの地震断層が生じました。また三河  
地震では地面が揺れるしゅん間、あるいは地震の前触れとして地面から光が出た  
という発光現象が発生しました。三河地震のように余震のたびに光ったという記録  
がある地震は他にないそうです。



## ・三河地震の被害

・地震の被害は渥美湾沿岸の幡豆郡でとくに大きく形原町などを中心に死者2306人、負傷者3866人、家屋全壊722戸、半壊1655戸を数えました。東南海地震に比べ三河地震の死者の数は2倍近くになっています。内陸型直下地震の大きな揺れによって大きな被害を招きました。東南海地震によって傷んでいた家屋が三河地震の強い揺れによって倒壊した事例も少なくありません。しかも三河地震は、発生が午前3時半過ぎてほとんどの住民が寝ていたため倒壊した家屋の下じきになって圧死した人が多かったのです。また、名古屋市からの集団寮をしてきた小学生が多数犠牲になりました。『西尾市史』によると、1365人の児童を受け入れていたといわれています。中でも宿泊していた寺が倒壊して多くの死者を出しました。女が命をうばったのは地震だったのですが、戦争さえなければ東南海地震での勤労動員の中学生の死も、三河地震の寮生童の悲けきも起きなかつたはずなのです。寮生童に多くの死者が出た現場では駆けつけた警察官が生き残った子どもたちに向かてお前たちここで見たことは見なかつたことにしろ!と命令したといわれています。まさにこの時代を象徴する事例だったといえます。



三河地震の家屋の倒壊

## 近所のお年寄りの方へインタビュー

福釜町に住む加藤さん(地震の時は5歳で高浜市に住んでいた)

地震の時はものすごく揺れた。家はつぶれなかつたけど近所のお寺はつぶれた。そ間に来ていた子どもたちがだいぶ死んだよ。死んだ人をリヤカーに乗せて小学校に集めて焼いたよ。本当に大変だった。

福釜町に住む加藤さん(地震の時は10歳で福釜町の今の家に住んでいた)

地震の時はこの家が傾いた。近所の家も傾いた家があった。家がつぶれて死んだ人もいたよ。家が倒れた時は砂煙がすごかったよ。つぶれた家もおこしにも行たよ。戦時中で飛行機にうたれそうになって大変だった。地震がきた時は1月で寒かった。

福釜町に住む神谷さん(地震の時は10歳で城ヶ入町に住んでいた)

地震が起きた時はおじいさん、おばあさん、弟3人と一緒におり屋で寝ていました。父親と母親と弟1人が横屋に寝ていました。横屋は大きくて屋根が重かたので倒れて3人が屋根の下じきになった。おり屋は屋根がかやぶきの屋根だったので軽く倒れずに傾いただけで私、弟3人、おじいさん、おばあさんの6人は助かった。おじいさんとおばあさんに早く出よと言われて外に出ようとしたけど立てずにはいづくばって何とか外に出ました。母親は窓のガラスのサシが首にささっていたそうでおじいさんが母親に弟はどうした?と聞いたらもう死んだと答えたとおじいさんに聞いた。父親は運がよく揺れたし、間に立ってその時に倒れてきた屋根の隙間に入り込んだみたいで無傷で助かった。母親を引っ張り出そうとしたけど屋根のハリに挟まれて助け出せなかつた。しばらくしてノコギリでハリを切って軽くて助け出した時は母親はもう死んでました。不思議だったけど悲しくなかつた。なぜかというと周りがみんな同じだったから。両とりの家は倒れなかつたけど、近くの家で倒れた家の下じきになった家族を助けてくれと

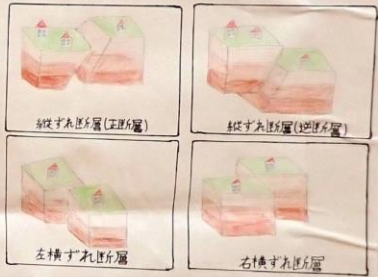
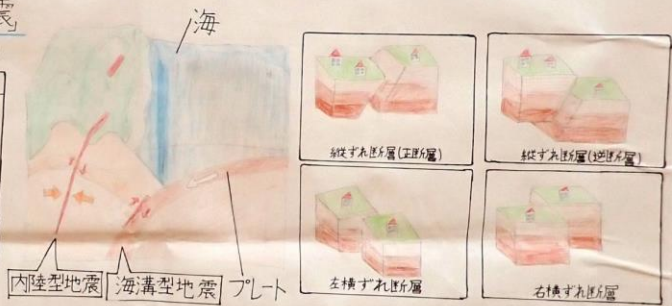


さげんでいたのを覚えている。城ヶ入はたしか54人亡くなった人がいた。戦争と地震の両方だったので子どもだったから怖かった。家が倒れてしまったのでとなりの竹やぶの真ん中を切ってそこに布団をひいて寝てました。雨と雪が降ってきたので大きなわら小屋を造って3件で一緒にそこで寝てました。東南海地震で家のつなぎ目が折れていて三河地震で倒れた家が多かった。本当に大変な時代だった。

・海溝型地震と活断層型地震の違い

「海溝型地震」と「活断層型地震」

特徴と違い		
	海溝型地震	活断層型地震
揺れの特徴	小さな縦揺れの後、ゆくりとした大きな横揺れが多い	いきなり大きな縦揺れが多い
揺れる時間	長く続く(数分間)	比較的短い時間(数十秒)
揺れる範囲	広い範囲にわたる	狭い範囲で揺れる
被害	家屋の倒壊や火災に加え、津波による被害もある	家屋の倒壊や火災による被害が予想される



・深溝断層



静岡県幸田町深溝



蒲郡市教育委員会作成図  
深溝断層と横須賀断層

東大名誉教授津屋弘達氏によって深溝断層(ふこうずだんそう)と名付けられています。深溝断層は活断層であり、この断層は田の中央を東西に走っており、南側の三ヶ根山地が東北東方向へつきあげた結果できたものです。



# ・防災に備えて

安城市地震ハザードマップ



地震に対する10の備え



## ・三河地震から学んだこと

・私は三河地震について調べてたくさんのことを学びました。まず地震の被害で家が倒れてたくさんの方が亡くなったりケガをしたり真冬に住む家なくなて外で寝たり本当に大変だったと思います。また戦争中で空襲があったり地震だけではなくつらくなかったことを知りました。そ開中の子どもの被害も戦争さえなければと思いました。近所の方にインタビューをして話を聞いた時、本当に怖かったです。海溝型地震と活断層型地震の違いから揺れ方や被害の違いもわかりました。地震が起こる前にしっかりと備えることが大切だとわかったので食料だけでなく救急用品や生活用品など、家具の固定や厚底のクツの用意など家族としっかり話し合い、東南海地震に備え防災について進めていきたいと思っています。

## ・参考にした本

『三河地震60年目の真実』『歴史災害を防災教育に生かす—1945年三河地震—』

『三河地震—直下型地震の恐怖—』

インターネット

安城市ホームページ・内閣府 防災情報のページなど